

に限らずベテランまで、明日から使える臨床技工のノウハウを学べることは貴重な経験である。そこで、本科でも金属床の実習を行っていることから、キャストパーシャルデンチャー特論の知識や技術を応用したいと考えた。そして、平成21年度から一部取り入れて実習を組み立てて実施したので、その内容を紹介した。

英語リーディングについて

廣瀬浩二（歯科衛生士学科）

リーディングは書き手と読み手のコミュニケーションであるという観点から、リーディングの重要性について発表した。英文をスムーズに読むには、約1万語が必要だといわれている。アメリカ人は小学校入学段階で既に約6千語の語彙を獲得している。しかも、これらの語彙は口頭で使用できるレベルにある。それに対し、日本人は中学校3年間でわずか900語程度である。語彙数からみて、日本人が読めないのは当然の帰結といえる。語彙力の他にも、日本の学校ではパラグラフ構成についてあまり教えていない。これは日本人が英語を読めない、書けない理由の一つだと考えられる。CLT（Communicative Language Teaching）は全盛でスピーキングにスポットライトがあたりがちであるが、確かな英語力を養うにはリーディングは避けられない。これまで日本の英語教育では、外国の指導法を直接導入することが多かったが、日本の環境に適する指導法を独自に開発する時期に来ていると考える。

第45回（通算第128回）：2010年6月24日（木）

（座長：栗崎由貴子）

歯科衛生士学科『歯科補綴学』合同 体験実習の取り組み

西山真紗美（歯科衛生士学科）

歯科補綴治療において歯科衛生士が歯科診療補助を確実にを行うためには、歯科医師の診療行為を十分に理解するとともに知識・技術を確実にする必要がある。そこで、平成21年度より、歯科衛生士学科2・3年生を対象とし、実施頻度の高い概形印象採得および咬合紙診査の学生参加型合同体験実習を行ってきた。その結果から問題点の把握と改善を行い、平成22年度の学生参加型合同体験実習を企画し、効果と課題を検討した。

学生指導者役である3年生の増員により、2年生の実習への満足度が上がった。3年生は平成21年度に合同体験実習を経験していたため、学生指導者役としての意欲が高かった。また、学生指導者役の経験は、自分の力量を知るとともに、責任感をもつことが示唆された。

今後は、他の実習においても学生指導者役となる機会を与え、知識や技術のレベルアップにつなげ、患者への歯科保健指導や集団における歯科保健教育に活かせる指導力を育成することが必要である。

第46回（通算第129回）：2010年7月22日（木）

（座長：飛田滋）

マウスガードの応用

佐々木 聡（歯科技工士学科）

2006年7月22日の第22回（通算105回）の月例研究会で「マウスガードの機能評価」について報告した。今回はマウスガードの応用編として、口腔内リモートコントローラへの応用、楽器奏者における機能評価について報告した。試作1号としてカラーマウスガード4.0mm、エルコデント2002（共にエルコデント社）を用いて下顎に全歯歯冠部のみを覆うタイプで製作した。自宅で演奏時に気になる部分（臼歯咬合面部や唇頬舌側部の厚さ）があり、前歯歯冠部のみを覆い、唇舌部を可能な限り薄くしたタイプを試作2号とした。試作2号は、切縁の厚さが気になり、厚さ1.0mmのエルコフレックス（エルコデント社）をみたび製作し、試作3号とした。試作3号はかなり良好な装着感とのこと。試作3号に慣れてもらうため、3ヶ月間演奏時には必ず装着してもらった。マウスガード試作3号に慣れたころ試作3号の装着有り無しで演奏を録音し違いを確認したが、確認出来ず、会場内の皆様から活発なご意見をいただいた。

障害学生の修学支援—発達障害を 中心に—

入山満恵子（専攻科保健言語聴覚学専攻）

近年、「発達障害」が様々な教育活動のなかで取り上げられつつある。その論議は、小・中学校のような義務教育の課程だけでなく、大学、短期大学のような高等教育機関においても広がりを見せてい